

# 里山生態系

里山生態系保全、生物多様性保全

日時：平成20年9月23日（火） 10:00～15:00

講師：中村 浩二（金沢大学環日本海域環境研究センター教授）

## 概況



### 1. 里山の生態系と生物多様性

里山は農林業の場であり、歴史的には持続可能な循環システムであった（と思われる）。人間が生態系から受ける利益を「生態系サービス」といい、その中には「供給サービス」（農林産物などがえられること）、「調節サービス」（気候や水循環の調節など）、「文化サービス」（レクリエーションや信仰など）が含まれ、それらのサービスは「基盤的サービス」（一次生産、土壌形成など）により支えられている。生物多様性条約は、生物多様性の保全と持続的利用、利益の衡平な分配を目的として1992年に定められた。環境配慮事業では、地域特性の尊重、明確な目標設定、順応的な管理、地域住民の理解と積極関与を得られる仕組みづくりなどが重要である。

### 2. 石川県の里山問題

能登半島の人口は現在23万人（同面積の東京都は1200万人）。2030年には10万人以下になり、限界集落がさらに増加すると予想されている。限界集落から集落崩壊にいたると、生態系の崩壊や伝統文化の断絶が起こる。里山の手入れ不足により、都市周辺部でも竹林の拡大、ナラ枯れの拡大も生じている。奥山と里山との境界線が曖昧になることにより、サル、シカ、クマなどの大型哺乳類が、里山や集落近くでも頻繁に出没している。

### 3. 金沢大学の里山活動と研究(金沢市)

金沢大学では'99年にキャンパス内の自然を活かして、環境教育や生涯学習などを行う「角間の里山自然学校」を開校した。

### 4. 金沢大学の能登半島での活動

'06年には「能登半島 里山里海自然学校」、'07年には「能登里山マイスター」養成プログラムを開講した。能登にトキやコウノトリを呼び戻すために、生息の潜在可能性の検討や「里山の健康診断」を行っている。金沢大学の里山活動は、石川県庁や国連大学高等研究所「いしかわ・かなざわオペレーティングユニット」(自然と人の共生、里山の持続的活用などを研究テーマに掲げて、金沢に2008年4月設置)と密接に連携している。

### 5. 日本の里山・里海の国際発信「里山・里海サブグローバル評価(里山 SGA)」

里山・里海の重要性をアピールし、国際比較が容易にするために、里山を「人の利用によって成立している生態系であり、多様な生態系がモザイク分布し、利用管理の変化による影響を受けるもの」と再定義している。